

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

○ICT 活用と外国語教育を柱とした幼小中一貫教育の推進に取り組んだ例

1. 市町村の概要

◆人口：10,852人（令和元年5月現在）

◆小学校：2校，児童数 436人 ◆中学校：1校，生徒数 205人

※学校数，児童生徒数は令和元年5月1日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本町は，2010年から2040年にかけて，20～39歳の若年女性人口が5割以下に減少する，「消滅可能性都市」であることが指摘された。子供の人数も減少の一途をたどっており，町立中学校のあり方についても検討が行われた。その結果，平成31年3月に松田中学校，寄中学校の両校を閉校・統合し，平成31年4月に新しい松田中学校を開校することとした。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

学校統合における魅力的な小中一貫教育校の創造

～先進的 ICT 環境・外国語教育を取り入れた新しい学校づくり～

◆研究課題

- ・小中一貫教育の導入に向けての検討
- ・小中一貫教育における幼小中12年間の教育課程の編成
- ・ICT機器を活用した魅力ある授業の展開や効果的な学習方法
- ・ALTと連携した外国語教育の推進及び英語検定への取組

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

松田町立松田小学校（15学級，404人）

松田町立寄小学校（7学級，32人）

松田町立松田中学校（9学級，205人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

寄地区の生徒数の減少，生徒数の多い学校で学ばせたい保護者からの要望，若年層の地域からの流出などの現状を踏まえ，中学生にとって望ましい教育環境はどうあるべきかを検討した結果，統合を決定した。

◆統合に至るまでの過程

平成27年 寄中学校あり方検討委員会発足

平成28年 松田・寄両中学校を閉校・統合が決定

平成29年 統合準備委員会発足

平成31年 新生「松田中学校」開校

◆統合による学校の教育環境の変化の状況

- ・生徒の通学状況の変化…スクールバス1台運行
- ・施設整備の状況…旧寄中学校校舎利活用検討委員会を発足
- ・地域との連携の状況…学校運営協議会の設置に向けて，先進事例や今後の課題について有識者から指導助言をいただく。

◆調査研究対象校の位置



松田小学校，松田中学校は JR や私鉄の駅から近い場所に立地しているが，寄小学校，旧寄中学校は山間部に立地しており，両学区を行き来するためには10km程度の移動が必要となる。

◆対象校の児童生徒数の推移

		H27	H28	H29	H30	R1
小学校	松田	393	386	406	380	404
	寄	36	31	36	38	32
	合計	429	417	442	418	436
中学校	旧松田	269	229	229	214	205
	旧寄	26	25	10	5	
	合計	295	254	239	219	205

## 4. 本調査研究において取り組んだ内容

### ◆遠隔合同授業の実施

ICT機器を活用した授業実践に向けて、機器活用のスキルアップを目指し、今後の授業実践に役立つ実践力を高めることを目的とした「ICT活用指導力向上研修会」を年3回開催している。本年度、その第3回において、小規模校の学びの充実を図ることを主な目的として、松田小学校と寄小学校の6年生が「教室—教室接続型」による遠隔合同授業を行った。



【教室—教室接続型遠隔授業】

### ◆外国語教育の推進

ALT 1名とマレーシアからのインターン生1名を町立小中学校に配置することによって、外国語教育の充実と日常的に英語にふれあう時間を確保した。また、小学校2校が同じ展開によって授業を行うことで、中学校入学までの間に学習の差が出ないような工夫をした。さらに、英語検定を受検した小中学生には検定料について補助することとし、積極的に英語の学習に取り組めるようにした。



【ALT との外国語の授業】

### ◆先進地視察

松田町では、地域と歩む教育を推進していくために、京都府南丹市の実践を視察した。様々な教育活動において学校と地域の橋渡し役となる「地域コーディネーター」の人選や、学校教育における活用のあり方について得た情報を、松田町の教員に対して報告することで、町内での配置に向けて検討していくきっかけとなった。



【南丹市立美山小学校】

### ◆「学校制度等に関するあり方検討委員会」及び「幼小中一貫教育推進委員会」の開催

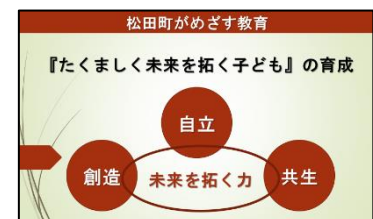
有識者に指導をいただきながら、「学校制度等に関するあり方検討委員会」を全9回、「幼小中一貫教育推進委員会」を全4回開催した。その中で、先進地事例を参考にしながら、地域とともに歩む学校の姿やめざす子供像について、学校、地域、保護者で協議を行い、共通理解を図ることができた。

## 5. 研究の成果と今後の取組

「学校制度等のあるあり方に関する検討委員会」や「幼小中一貫教育推進委員会」において確認された松田町がめざす教育について、校長・園長会や「松田町幼小中一貫教育推進会議」を通して、保育園、幼稚園、小学校、中学校教間で共有できたことには大きな意義があった。

また、遠隔合同授業によって、今後、町内の同じ中学校に通う児童同士が共に学ぶ機会を得られたことも成果と言える。

一方、英語検定の補助については、活用率が18%程度にとどまっている。松田町の広報紙や英語教育推進委員会の場で広報活動は行っているものの、十分な活用とは言えない。子どもたちが英語を学習するための動機付けとなるよう、引き続き情報発信に努めたい。



【松田町が12年間でめざす教育】

## 6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

「子どもたちは、地域の宝、地域の未来!」というスローガンのもと、松田町では教育活動に取り組んでいる。統合により、地域の方々や卒業生は寂しさを覚えるが、地域とのつながりをより密にしていこうとチャンスと捉えることもできる。統合を機に、教育実践について再度見つめ直す機会としていただきたい。